

奥多摩・峰谷川坊主谷 沢登り 山行報告

【日時】8月25日（日）

【天候】くもり時々晴れ

【行程】朝4時穴川発→八王子IC→6:45 鷹ノ巣山峰谷川入渓ポイント駐車→7:15 入渓→13:45 脱渓→鷹ノ巣山登山道→浅間神社付近より林道へショートカットし15:50 下山後帰路

【参加メンバー】佐藤（CL）、松本、小宮山、秋本（記録）

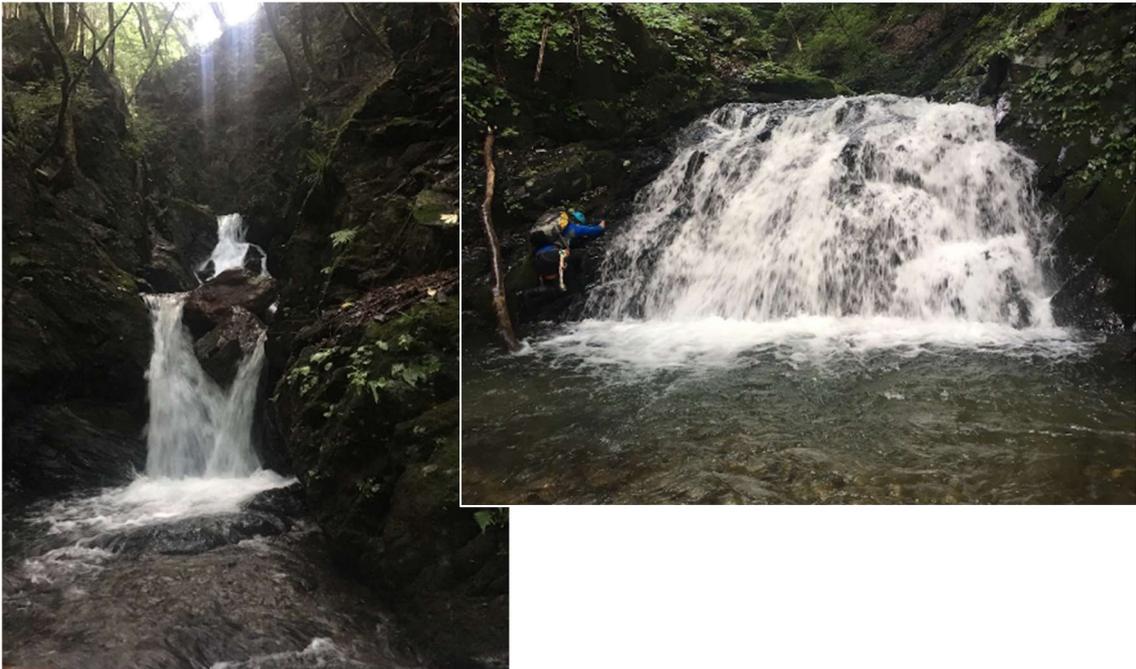
【装備】基本装備、ロープ 8.2mm×30m、補助ロープ 7mm×10m

【内容】

朝晩が涼しくなり、沢シーズンもピークを過ぎた感が出てきた今日この頃、奥多摩・鷹ノ巣山の坊主谷に行ってきました。曇りなこともあり、寒いかと心配しましたが、全くそんなことはなく、最初から最後まで滝に突入し、全身ずぶ濡れで沢を堪能しました。

八王子ICからずいぶん走って、見逃しそうな入り口から林道に入ります。林道はかなり狭い。入渓地点には車が2台ほどは止められますが、この日は誰もおらず、沢では人に会いませんでした。

雨の後であり、ネットの記録と比較しても水量は多め。入渓してから2つほど堰堤を巻き、3mCSと遡行図に書かれた滝（左）が登場。楽しく登ります。その後も、小滝が連発し、遡行図との判別が早々に難しくなったころ、特徴的な5mの滝（右）が出てきました。これも難なく登ります。

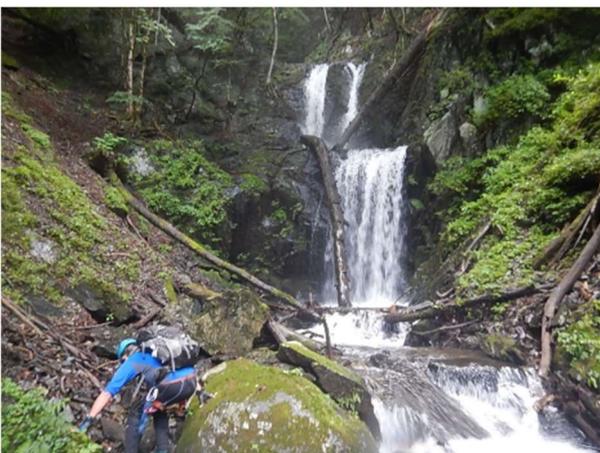


続いて、出てきたのは、上部の手掛かりが少なそうな滝。佐藤 CL が左側から登り始めます。上の方では、水量が少ない左側は少し被っており手掛かりも乏しく登りにくいため、どばどばに水が流れている真ん中へ突入していきます。下から見ていると、水流に押されて落ちてくるのではとドキドキしましたが、後から聞くとそうでもなかったそう。ただ、ホールドが悪くて探すのに手間取ったということでした（S：少しでも気を抜いたら落ちそうで怖かったです）。ロープを出してもらって、他のメンバーも同じくずぶ濡れで登ります。

↓ホールドを探しているところ



穏やかなエリアでは、「気持ちいいから一番前を歩いて良いよー」と言っていたけども、歩き出し一歩目でドボンと腰までの深みにはまる注意力のない私...(しかも同じことを2回やった)。沢マスターへの道は遠い。



そんなこんなで、顔から下、全身水を滴らせながらどんどん出てくる大小の滝を、ほぼ巻くことなく登っていきます。

核心部の5段の滝（左）が登場。写真よ

りも実物は迫力あります。記録では登っている人もいますが、巻きました。右岸（左手）から急斜面を登るも、雨の後のこともあり、ずりずりと下がっていくし、手掛かりが少ない。個人的には、集中して一步一步登って行った高巻きが、今回の沢の中で一番楽しかった。5段目の滝を過ぎたあたりで、懸垂下降で沢に戻りました。遡行図では、この後はのんびりした沢になるはずが、それなりの高さの滝はまだ出てきました。

5～10分ほど歩くと、石垣が現れます。ワサビ田の跡地ということでしたが、残念ながらワサビは見当たらず。その上の開けたところでお昼休憩としましたが、GPSを確認したところ、道を間違っていることが判明。右俣に入るところがどこかにあったのですが、左俣に来てしまった模様。高巻き中に通り過ぎちゃったのかな、などと言いながら来た沢を戻ると、ワサビ田の石垣が出てきた地点が分岐でした（右の沢もすごくしっかりしているのに、全員で見逃した）。今度行かれる方は、石垣に気をとられて道を間違えないように気をつけてください。

その後も、ゴルジュが登場したり、ナメの部分もあり、苔もきれい。泳ぐ以外の沢の要素が詰め込まれており、水量も多く、楽しいです。標高的には後150mで登山道、というところでもまだ水はなくならず、疲れてきたので2俣に分かれているところで枯れた方の沢に進みました（S：そのまま水のある右俣に進めば水源に直接出たはず）。沢の右岸の急傾斜を直登すると、しっかりした踏み跡が出てきて、それに従いトラバースするとすぐに登山道に到着。沢装備を片付けて、鷹ノ巣山山頂と反対方向に進むと、すぐに奥多摩湖の水源だという湧き水がでてきたので、一応一口（S：鷹ノ巣避難小屋の水場。多摩川の本当の源頭は笠取山の「水干」）。下山は浅間神社の参道？（鳥居が2つある）のところまでは登山道を歩きますが、そこで、T字路的に別の登山道に出会います。その登山道を無視して、浅間尾根を下りるショートカット。最後の方は急斜面ですが、ほぼ登山道と言えるほどの踏み跡がついています。林道に降り立ち、10分ほどで入渓地点へと戻りました。

充実の沢登りとなりました。リーダー始め、みなさん、ありがとうございました。



